

平成 26 年度 多摩区地域人材育成事業の取組み

【モデル事業】

1 “～区民の学びを支える総合型生涯学習体験教室～2014 多摩市民館デー”

- 目的：生涯学習活動をきっかけに地域の人材を発掘し、市民活動に広く参加してもらう。
- 日程：平成 26 年 8 月 2 日（日）
- 会場：多摩市民館 2 階～5 階
- 参加団体数： 団体 13、 市民講師：3
- 一般参加者： 約 300 名

2 “子育て支援者養成講座受講者実践活動研修” ＊こども支援室・生涯学習支援課共催

- 目的：6 月から 10 月まで実施した子育て支援者養成講座の参加者を実践活動につなげるための研修
- 日程：12/5・19、1/16・30、2/20、3/6 金曜日 全 6 回 10 時～12 時
- 会場：多摩市民館体育室、第 1 会議室
- 内容：子育てひろばの運営の実践、活動中の事故・災害についての学習、手遊びを通して子どもとのふれあい、子育て講演、親子リトミック等

【地域人材募集】

- 目的： 市民活動人材の登録制度を開始し、知識や経験を活かした市民活動を支援する。併せて、区役所の協働事業による地域課題の解決を進める。
- 募集日程：平成 26 年 11 月 18（火）～平成 27 年 1 月 16 日（金）＊以降も継続募集
- 申込方法：生涯学習支援課で配布する募集要項・申込用紙に必要事項を記入の上、上記期間内に生涯学習支援課窓口に提出する。（多摩区役所や区内の主要施設にも配架した。）
- 登録者数 個人 12 団体 5（平成 27 年 2 月 6 日現在）

<主な登録分野>（複数回答）

個人	市民活動望	野外活動、福祉・生涯教育推進、漫才（ボランティア）、パソコン、英語・中国語通訳、地域コーディネーター、生涯学習活動
	市民講師	市民活動支援、就労支援、男女平等推進、野外活動、国際交流、高齢者・介護領域での音楽療法、フラワーアレンジメント、シニア社会参加促進、傾聴、表現活動、労災・交通安全講習、ハンドトリートメント、ハーブ・アロマセラピーインストラクター、ドッグトレーニング
団体		生活設計関係、朗読、まちづくり、社会教育・生涯学習活動、子どもの健全育成、観光ガイド

【市民協働研修】（会場：多摩市民館）

- 目的：市民活動団体・地域人材と円滑な事業ができるよう運営上のスキルアップを図る。
- 日程：1/26（月）、1/28（水）午後 2 時～4 時 同日内容で 2 日間
- 講師：市民社会パートナーズ 代表 庄嶋孝広、総合企画局自治推進部 職員
- 内容：●多摩区地域人材育成事業における地域人材のしくみ
 - 協働型事業について
 - 地域課題を解決する市民と行政のまちづくり
- 参加者数：1/26（月）：10 名、 1/28（水）：6 名

【市民活動研修（入門編）】（会場：多摩市民館）

- 目的：興味や関心のある分野で、活動内容に関係した知識を養う。
- 日程：1/22（木）、1/24（土）午前 10 時～12 時 同日内容で 2 日間
- 講師：公益財団法人かわさき市民活動センター 金田浩司
多摩区まちづくり協議会会長 本多正典、副会長 粕谷充子
- 内容：●多摩区地域人材育成事業における地域人材のしくみ
 - 「さあ、市民活動をはじめよう～市民活動始め～」
 - 市民活動の事例紹介
 - 市民活動への想いを話し合おう
- 参加者数：1/22（木）：3 名、 1/24（土）：2 名

【市民活動研修（スキルアップ編）】（会場：多摩市民館）

- 目的：活動を客観的に振り返り、活動のあり方を見出す機会とする。
- 日程：2/26（木）午前 10 時～12 時 同日内容で 2 日間
[2/5（木）は悪天候により中止]
- 講師：（株）エンパブリック 松井健二
- 内容：●多摩区地域人材育成事業における地域人材のしくみ
 - 市民活動の事例紹介
 - 市民活動を振り返っての意見交換・悩み相談
- 参加者数：8 名

地域福祉啓発事業 報告書

(1)目的

普段、地域福祉に関わりが少ない区民を対象に、地域福祉について考えるきっかけづくりとして地域福祉に関連した寄席を実施し、今後の地域づくりや地域の見守りにつなげる。

(2)実施概要

- ①タイトル 落語で笑って納得！ 地域の支え合い
- ②開催日時 平成26年11月5日(水) 13:30~15:30(開場12:30)
- ③会場 多摩区役所市民館大ホール
- ④実施内容

【第1部 講演会】

- ・講演：黒岩 亮子氏（日本女子大学 社会福祉学科専任講師）
「多様化する家族と地域での支え合い
～誰もが健やかに安心して暮らせる多摩区をめざして～」
- ・「チーム・たま」の活動紹介：中村 健氏（多摩区医師会長）
※「チーム・たま」：多摩区における在宅医療・介護に関する多職種のネットワーク組織

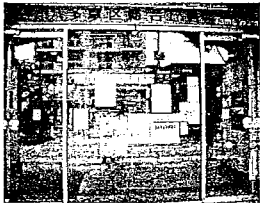
【第2部 福祉落語】

- 出演者：桂 米多朗氏
江戸家 まねき猫氏
春風亭 昇羊氏

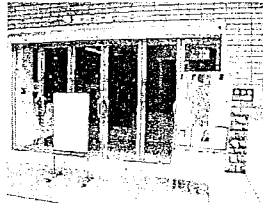


⑤参加者数 約300人

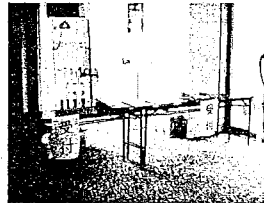
(3)当日の準備と会場の様子



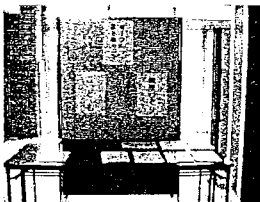
区役所入口の掲示



市民館ホール前の掲示



受付



リーフレット置場



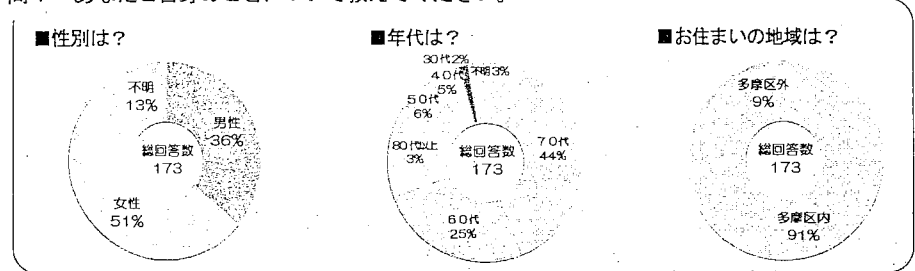
会場前の様子



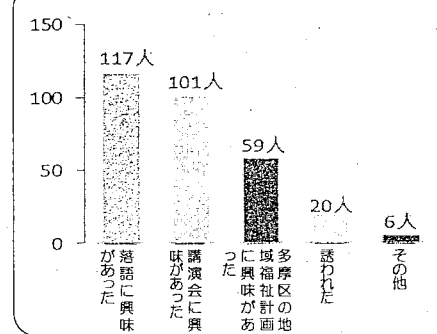
ホール内の様子

- 参加者数 300人
- 回答者数 173人
- 回答率 57.7%

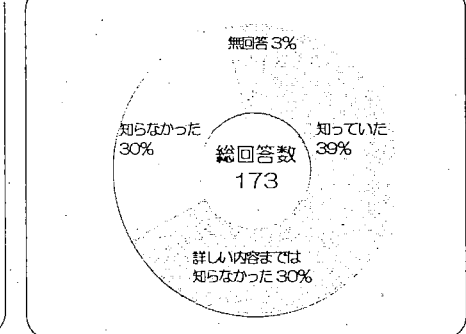
問1 あなたご自身のことについて教えてください。



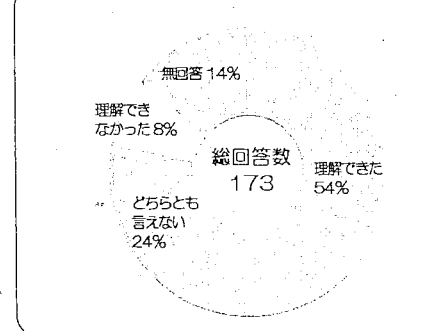
問2 この会合に参加した理由は何ですか？(複数回答可)



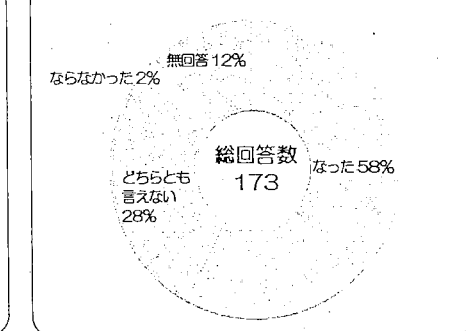
問3 地域包括ケアシステムという言葉を知っていましたか？



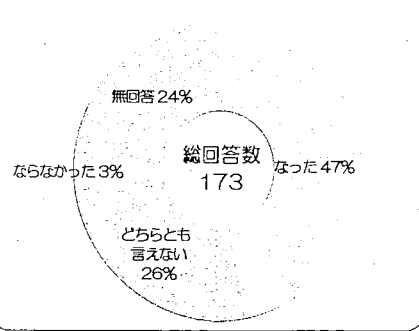
問4 本日の会合を通して、地域包括ケアの内容を理解できましたか？



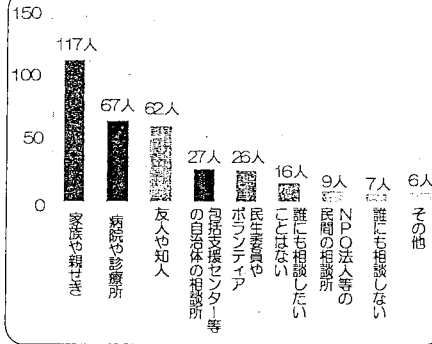
問5 講演会が、家族・地域とのつながりを考えるきっかけになりましたか？



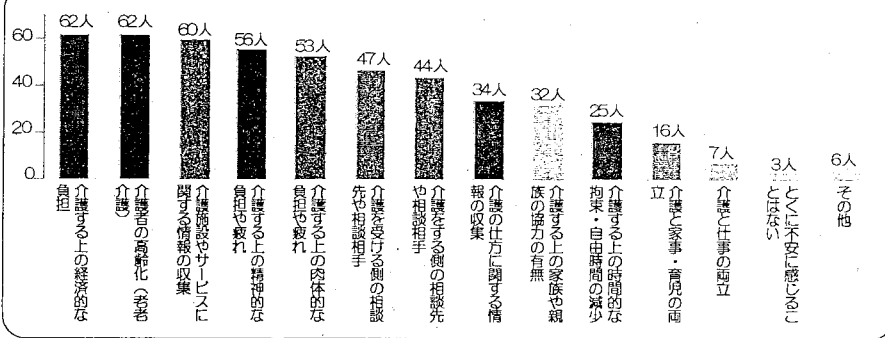
問6 落語が、家族・地域とのつながりを考えるきっかけになりましたか？



問7 医療、介護で心配なこと、不安なことは、誰に相談しますか？（複数回答可）



問8 介護する側、される側になった時に、何か不安はありますか？（複数回答可）



問9 生活のなかで、地域での支え合いをするために既に実践していること、自分が実践できそうなこと、または実践してみたいことはありますか？

- ・近所の一人暮らしまたは高齢者の方への声掛け等、または若い子どものいる家庭の方との立ち話等で、近所に顔見知りの人を多くしたいと実践している。
- ・隣近所との親睦。向こう三軒両隣くらいでバーベキューをしたいと思っている。
- ・ボランティア的なことをしたい人たちは随分いる。呼びかければ良いと思う。仕方（ボランティア）をしっかりと教えれば、役に立つはず。

問10 本日の会合の感想、地域福祉への提言など、ご自由にお書きください。

- ・家族からの視点、大変勉強になった。地域の中で活かしたい。
- ・近所で認知症になりそうな方がいると何とかしてあげたいが、どうすればよいかわからない。
- ・介護ヘルパーの資格は大変だが、時間と暇がある人も近所に数多くいる。（50代で）簡単な家事、買い物、付き添い援助などができるような資格があるといい。
- ・昔とは違う、新しい近所の付き合い方をさがさないといけない。
- ・家族の大切さや近所隣りのつながりを大事にすること、身に染みました。
- ・働いていない高齢者が多い。まだまだ働けるのにもったいないと感じている。子どもの事件が多く悩ましい限りだが、登下校の道を見守りする等、ボランティアできることはあると感じている。もっと高齢者を使っても良いのでは。一面、高齢者を過剰保護しているのではと感じている面あり。
- ・他人任せではなく、自助努力が不可欠と考える。

平成26年度 地域福祉ネットワークづくり事業

「地域でつながりひろがる交流会」実施概要

1. 目的

当事業は、行政区域の多摩区役所管轄地区と生田出張所管轄地区の2地区で、民生委員児童委員・地域包括支援センター・自主グループ・NPO法人・老人クラブなどの地域の保健福祉に関わる機関や組織が集まり、お互いの活動を知り、顔つなぎを行い、今後の活発な地域福祉活動を行っていくための基盤作りを目指すものである。

2. 概要

(1) 実施日時・場所

○生田出張所管轄地区

[日時] 平成26年11月12日(水)

午前9時半～12時

[場所] 生田出張所3階大会議室

○多摩区役所管轄地区

[日時] 平成26年12月3日(水)

午後1時半～4時

[場所] 多摩区役所防災対策事務局

(2) プログラム(2日共通)

●あいさつ

●本日の目的と進め方

●地域包括ケアシステムについて(講演)

黒岩亮子先生/日本女子大学社会福祉学科専任講師

●地域でボランティア活動する団体による「お題」の提供(5団体)

①チーム・たま(医療・介護の連携)

②手話サークルやまびこ

③たまっ子育成会議

④多摩区健康づくり連絡会(公園体操・ウォーキング・いきいき体操)

⑤たまむすび(外遊びとシニアの連携)

●グループワーク

話題提供した団体が入る5つのテーブルに分かれて、それぞれの団体の「お題」を解決するアイデアを出し合います

●発表・講師コメント

(3) 地域包括ケアシステムについて(講演)

交流会では、講師・コメンテーターとして黒岩亮子先生にご登壇いただき、地域包括ケアシステムが生まれた経緯や仕組み、今後の展望等をご紹介いただいた。



〈講師・コメンテーター〉

黒岩亮子先生(日本女子大学社会福祉学科専任講師)

東京都立大学大学院都市科学研究科、日本女子大学大学院社会福祉学専攻修了。社会福祉学博士。淑徳大学を経て2012年より現職。

(4) グループワーク

地域でボランティア活動する団体が入る5つのテーブルに分かれ、それぞれの団体が抱える課題や悩み等の「お題」を解決するためのアイデアを出し合うグループワークを実施した。

①チーム・たま(医療・介護の連携)

チーム・たまは、多摩区内の医療・介護・福祉・保健に関わる機関に呼びかけて結成された多職種のネットワーク組織です。高齢化が進む中、在宅医療にどう取り組むか「地域で看取る」を合言葉に、横の連携づくりに力を入れています。住民で困っている人の相談に乗り、必要とされる専門知識を持つ機関や人につなげる役割を、チーム・たまとして果たしていきたいと考えています。

お題

自分が介護する立場・受ける立場になったとき、どんなことが心配・不安ですか？またそのような時、チーム・たまへどのようなことを期待しますか。

議論のポイント

- ・多くの友人・話し相手がいることがポイント。隣近所との話せる、相談できる関係づくりが大切。
- ・小さな集まりでも具体的に高齢者のニーズに答えるものがあれば、地域に出てくる。それを仕掛ける町内会の運営は、やる気やアイデアのある人にどんどん任せられるようにすべき。
- ・「チームたま」のような多職種が集まるネットワークを築き、相談会も開催できると良い。
- ・財政が厳しい中で、介護や医療の質を保つためには、地域と専門家の連携が必要。
- ・介護や医療を受けるにあたって、まずは家族での話し合いが大切。「本人の気持ち」「家族の気持ち」にとって、一番幸せな選択をしよう。
- ・ウォーキングや健康体操などの健康維持や予防の取り組みも大切。
- ・互助のシステムとして「地域通貨たま」を活用したい(無料では頼みにくいことが、地域通貨を活用することによって気軽に頼み易くなる)

②手話サークルやまびこ

やまびこは、昭和58年創立の手話サークルです。聴覚障害者から手話を学び、一緒に活動することで聞こえない人たちの生活を知り、相互理解を深め聴覚障害者が地域で当たり前暮らしをお手伝いすることを目的としています。多摩区内の小中学校等からの手話講習会の依頼を受け、聴覚障害者と共にその生活の工夫や不便さ、コミュニケーション方法などを学んでもらい、理解を広げていただいています。また、多摩ふれあいまつり等地域の行事にも聴覚障害者と一緒に積極的に参加しています。

お題

聴覚障害者は見た目で見えない障害なので、聞こえる人からマナーなどで誤解をされやすい現状があります。みなさんは、聴覚障害者の方をどのようにイメージされますか。また、障害者の方を手助けするにはどのような方法が考えられますか。

議論のポイント

- 生活シーンや障害の内容によっていろいろな苦労や手助けする方法があることを皆で気づこう！
- ジェスチャーによるコミュニケーションが楽しいことを共有することから始めよう！
- コミュニケーションの手助けツールがいろいろあることを知り、活用しよう！
- ICT技術を使った新たな情報交換・コミュニケーション支援ツールの開発の推進を！
- コミュニケーションが深まると「手話」がやりたくなり、徐々に楽しくなる。
- 聴覚障害のある方は、もっとご自分をPRできるよう、交流できる身近な機会を増やそう。
- 災害時のコミュニケーションのあり方を考えよう！
- 聞こえない状況とはどのような状況なのかを知ることから始めよう！
- 聴覚障害のある方と気軽にコミュニケーションができる『敷居の低い』つどいの場を企画しよう！

③たまっ子育て会議

区内の関係機関や団体等が委員となる「多摩区子ども総合支援連携会議」で、実態調査や子育て支援基本方針（たまっ子プラン）を策定し、地域全体での取組を推進しています。今年度は地域別の会議も行いました。意見として、親の孤立感の軽減や子どもの居場所づくりの他、支援のつながりづくりについての課題が出され、多世代交流など地域でつながることの重要性が挙げられました。

お題

地域の子ども・子育て支援について、地域のつながりとして世代交流をもっと推進するための工夫やアイデアはどんなものがありますか。

議論のポイント

- 多世代交流に向けて、シニアの方に地域に積極的に出て来てもらう工夫が必要
- 町内会・自治会、学校、集合住宅など、小さい単位で多世代交流ができる企画を考えよう
- 多世代交流の工夫やアイデアを実行する担い手を育成しよう
- 地域の子どもやリタイヤ世代などどんな人がいるか、自分の住んでいる小さい単位で把握しよう
- 学校や子ども文化センターなど、上手に地域の組織と連携して多世代交流を推進しよう
- 子育てサロンや子どもの健診など、人が自然と集まる場を起点に交流の裾野を広げよう
- シニア世代にノウハウを子育て世代や子どもに伝えることを通じて交流を深めよう

④多摩区健康づくり連絡会（公園体操・ウォーキング・いきいき体操）

多摩区の高齢者に対し、毎日が元気ですこやかに過ごせることをモットーに、3つの運動団体からなる連絡会組織です。期を同じくして、本年度発足しました。各団体のボランティアが、転倒予防や介護予防などを目的として運動に取り組んでいます。健康は自分で守るものです。

お題

運動に関する健康づくりや介護予防の活動を地域とつながりながら広げていくには、どのような方法が考えられますか。また、健康づくり連絡会へ期待することはありますか。

議論のポイント

- どのような活動か？若い人も参加できるのか？町会の掲示板などを使う、色んな団体への出張&活動紹介を行うなどして、もっと上手にPRしよう！
- 活動場所の拡大や、若い人が参加しやすい環境づくりなど、様々な人の参加の開口を広げよう！
- 健康づくりに関連した運動以外のイベントや企画で、楽しく参加しやすい場にしよう！
- 健康づくり活動に関わりの薄い層が参加しやすくなるよう、柔軟な活動にしていこう
- 団体の担い手であるボランティアの確保や、新しい会場の確保等、受け入れ側の体制を整えよう
- 新たな参加者を発掘するため、体操やウォーキング以外の、興味を引くイベントを企画しよう
- 他団体の活動への出張や、保育園・小中学校等との連携等によって地域のつながりを深めよう
- 医師会等と連携し、健康づくりの具体的な効果を知ることのできる機会等をつくっていこう

⑤たまむすび（外遊びとシニアの連携）

たまむすびは、「シニアが子どもに遊びを教える方法を習得する」というアイデアの実現に向けて、賛同するメンバーが集まり「子ども、団体、シニアをつなぐプラットフォーム」として、平成26年1月から立ち上がった多摩区まちづくり協議会のできたほやほやのプロジェクトです。

お題

地域で活動していないシニア世代が、子どもたちの遊びに気軽に参加したり、継続して活動に関わるためにはどんな方法が考えられますか？

議論のポイント

- 外に出ない男性を外出させる方法：①奥さんの後押し！②地域の中に役割があることが大事！
- シニアが活動できる場とシニアをつなげる窓口やネットワークが必要！
- シニアと子どもとの中間層である30～50代の世代の育成も必要
- 顔の見える地域の活動は、町内会・自治会を巻き込まないや進まない
→費用や場所の確保が可能であり、シニア世代への役割分担等ができるとうい
- あまり使われてない地域の施設や中野島の寺子屋のような常設の場等を活用
- まずはまわりの人を誘うことから始めよう（面識のある人がいると安心して参加できる）
- 趣味や孫の公園デビューも入口になる

第 4 期川崎市地域福祉計画の計画期間について

【川崎市地域福祉計画の延長】

新たな総合計画や、高齢者保健福祉計画をはじめ関連する計画の多くが、平成30年度に次期計画期間の開始となるため、平成28年度に終了する計画を、平成29年度まで実施期間を1年間延長し、他計画との計画期間の整合を図ります。延長にあたっては、地域福祉計画推進検討会議において、推進する項目や取組の進捗状況を確認したうえで社会情勢の変化等を踏まえ、進行管理を行ってまいります。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026			
	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
新たな総合計画	→														
都道府県系策計画	→														
川崎市地域系策計画	→														
かわさきいきいき長寿プラン	→														
高齢者保健福祉計画	→			→			→			→					
介護保険事業計画	第6期			第7期			第8期			第9期					
かわさきノーマライゼーションプラン	→														
障害者計画	→														
障害福祉計画	→														
かわさき健康づくり21	中間見直し			→											
川崎市地域福祉計画	→														